

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
112	川崎市立片平小学校	紀 裕子

学校教育目標	今年度の重点目標
仲よく語り合い協力し合う 豊かな人間性を育む教育 ○学び続ける子 ○考えて実行する子 ○やさしくたくましい子	<ul style="list-style-type: none"> <li>確かな学力の育成</li> <li>開かれた学校づくり</li> <li>子どもと共に築く学校</li> <li>豊かな心の育成</li> <li>健やかな身体の育成</li> <li>安心・安全な学校づくり</li> <li>教職員の資質向上</li> </ul>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	確かな学力の育成 ・楽しくわかる授業の実践 ・基礎的・基本的な知識・技能の習得 ・言語活動を通し主体的・対話的で深い学びの実践	・国語の校内研究を中心に言語活動、表現活動に力を入れ、コミュニケーション力の向上に努めた。中高学年においては、ギガ端末も効果的に活用していた。・専科指導、少人数指導、取り出し、入り込み指導を計画的に行えるよう努めた。より楽しくわかりやすい授業の実践を目指す。	・学年の協力体制をさらに充実させ授業改善の意識を高める。学年内の交換授業の推進を図る。・校内OJTの体制をより構築していく。・今年度以上にゲストティーチャー、教育サポーター、ボランティアの活用や連携を図る。
2	子どもと共に築く学校 ・子ども一人ひとりの活躍の場の確保 ・児童が主体的に活動できる場の充実	・子どもたちが主体的に関わり、協働する力を育てていくことを目指して教育活動を行った。・運動会などの各種行事に向けて、児童会での話し合いを深め、子どもたちの意見を反映した行事の実施ができた。	・行事や異学年交流については、教育効果を考え内容を工夫していく。・40周年へ向けての児童の意識を高めたり、十分に活動できる時間の確保をしたりする。
3	豊かな心の育成 ・人権教育週間の設定・道徳教育の充実 ・自己肯定感・自尊感情の向上推進 ・効果測定・かわさき共生＊共育プログラムの実施 ・キャリア在り方生き方教育の推進 ・児童支援CO.を核とした組織的な児童支援体制の取組	・支援教育CO.を中心に、打ち合わせや職員会議での報告、ケース会議の充実などを徹底し、学年間の共通理解を図りながら、全職員で対応した。・生活アンケートを定期的実施しフィードバックして、児童支援に生かすことができた。	・キャリアノートの活用、引継ぎについて職員研修を徹底し、年間の取り組みを計画的に実践していく。・支援教育CO.を中心に支援に必要な児童、保護者に丁寧な対応を継続していくとともに、さまざまな外部機関を活用しながら、適切な支援を探っていく。
4	健やかな身体の育成 ・休み時間等の日常的な運動の推奨 ・学級活動や体育科による健康や食に関する指導 ・手洗い、換気の徹底による感染症の蔓延防止	・専科指導により、体育学習を充実させ身体を動かすことの楽しさを味わわせるよう努めた。・休み時間に支援教育CO.など教職員が校庭で見守り体力向上を図った。	・キラキラタイムをイベントとして行う活動だけでなく、日常的に皆が外に出て行える活動をバランスよく取り入れていく。・栄養職員と養護教諭と学年が連携を取りながら継続して食育を推進していく。
5	開かれた学校づくり ・学年、学校だより、HP等による学校教育活動の積極的な情報発信 ・地域教育や地域素材の有効活用 ・学校運営協議会、学校評価の活用	・学年、学校だよりやHPを通して、地域や保護者に教育活動の様子を積極的に発信することができた。・のびゆくすがたの所見の変更に合わせて、授業参観、個人面談、メール配信などにより力を入れ、保護者に学校の様子を公開し、学校への理解につなげた。	・学校説明会、報告会の配信等のよさも見えてきたので、よりわかりやすい内容になるよう工夫する。・来年度開校40周年なので、11月の式典をよい契機として、地域と学校のより協力的な関係を構築したい。
6	安心・安全な学校づくり ・避難訓練や防犯・防災教育への取組 ・通学路の安全点検、登下校指導による児童安全対策の強化 ・PTA、町内会、自治会との連携	・朝会、学級活動に位置付けて、スクールガードリーダー、スクールサポーターや校長、児童支援CO. から交通安全指導を何度か行った。・避難訓練を通して「自分の命は自分で守る」ことを繰り返し徹底した。	・登下校の安全や有事の際の避難について繰り返し指導していく。・PTAを中心とした保護者の協力をお願いする。・外部講師の活用を図り、情報モラル教育や交通安全教育などを継続して行う。
7	教職員の資質向上 ・児童理解、児童指導に関する研修の充実 ・授業改善に向けた授業研究会の充実 ・教職員の不祥事防止に関する研修の充実	・校内研究では国語科を中心に、「他者意識をもって、関わり合いながら学びを深める言語活動の充実」を目指して授業研究をすすめた。・多様性の理解や児童支援、不祥事防止の研修を行った。	・若手教員を中心に丁寧な保護者対応など支援教育についての理解をすすめる。・教員が互いの強みや専門性を遺憾なく発揮し学びあえるようにする。・働き方改革をふまえながら、質の良い授業を目指す。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> <li>参観では、学校生活を楽しみ主体的に活動していることが伝わった。机上の勉強だけでなく協調性、思いやり、友達づくりなどを大切に社会でたくましく生き抜いてほしい。</li> <li>学校アンケート結果から、ほとんどの児童が学校が楽しいようだが、「学校が楽しくない」と答えた児童の理解・支援にも努めてほしい。</li> <li>授業を落ち着いて受けていることや児童たちのあいさつがすばらしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校関係者のご意見や保護者のアンケート結果から、今年度の教育活動について「主体性・協働」の力が育ってきていると評価していた。・確かな学びプロジェクトを中心に、「国語科」を通して他者意識をもって人と関わり、自分の言葉を使った豊かな言語活動が行えるような授業を目指してきた。来年度も、教員どうし切磋琢磨して研修を積み重ねていきたい。・40周年式典を子どもたちの表現力を発揮する絶好の機会ととらえ、達成感を持たせ、その後の自己肯定感につなげたい。・管理職が教職員の声に耳を傾け、よりよい教育活動について皆で最善策を探るよう努めるとともに、働き方改革を意識しながら長時間勤務を防ぎたい。</li> </ul>